

市長の活動報告（令和8年1月）

1月8日（木曜日） 阿南市高規格道路等建設促進期成同盟会等3団体による整備局への冬期要望活動

四国地方整備局の豊口局長をはじめ幹部職員の皆さまに対し、関係団体と連携し、高規格道路の早期整備や那賀川水系における治水対策の推進、予算額の確保に向けて冬期の要望活動を行いました。

近年、激甚化・頻発化する豪雨災害や将来想定される南海トラフ地震への備え、さらには地域経済の活性化を図るため、基幹インフラの整備は喫緊の課題となっていることが背景にあります。とりわけ、3月8日に開通予定の阿南インターチェンジは、防災力向上と産業振興の両面で大きな効果が期待されます。あわせて、流域治水の推進と支援拡充についても国に強く働きかけました。

今後も関係機関と連携し、安全・安心で活力あるまちづくりを進めてまいります。



1月11日（日曜日） 令和8年二十歳の集い

「二十歳」という人生の大きな節目を迎えた皆様を祝い、家族や友人、地域との絆をより一層深める機会として「阿南市二十歳の集い」を挙行了しました。本市では総勢627人が新たな門出を迎え、式典は多くのご来賓のご臨席のもと、厳粛かつ温かい雰囲気の中で開催することができました。

第一部では長生地区の藤田さん、第二部では那賀川地区の引田さんが、それぞれ二十歳の決意を力強く述べられ、未来への志と責任を感じさせる大変頼もしい内容となりました。

私からは、震災や新型コロナウイルスの拡大、急速なデジタル化など「想定外」が続く時代を踏まえ、備えにより「想定内」とする力と、それでも生じる変化に柔軟に対応する力の重要性をお伝えしました。

今後、それぞれの道で活躍される中においても、ふるさと阿南への誇りと愛着を胸に、新たな時代を切り拓いていかれることを期待するとともに、皆様の輝かしい前途を心からお祈り申し上げます。



1月22日（木曜日） 南阿波定住自立圏における持続可能な地域公共交通の維持確保に関する要望活動

市民の皆さまの日常生活に欠かせない「地域公共交通」を守るため、南阿波定住自立圏として初となる国への要望活動を実施いたしました。

現在、地方都市では、人口減少や少子高齢化、深刻な運転手不足等により、交通事業者の経営環境は極めて厳しくなっています。当圏域においても、バス路線の縮小・廃止や、長年親しまれてきたJR特急「むろと」の運行終了など、地域の交通インフラは危機的状況に直面しています。高齢者や学生など、移動手段を必要とする方々の生活基盤を維持することは、本市にとって最重要課題です。

この難局を打開するため、美波町、牟岐町、海陽町の各町長とともに国土交通省を訪問いたしました。佐々木副大臣をはじめとする幹部の方々に徳島南部圏域の切実な現状を直接お伝えし、路線バスやJR四国路線の維持・存続、運転手確保のための継続的な支援に加え、既存の枠組みにとらわれない新たな公的支援の充実を強く要望してまいりました。

今回の活動を通じ、南部圏域が連携して事態に当たる重要性を再確認いたしました。今後も市民の皆さまの「生活基盤となる交通網」を守り抜き、地域の持続可能な発展を実現するため、関係自治体と固く連携し、全力で取り組んでまいります。

1月31日（土曜日） 阿南市立椿小学校 創立150周年記念式典

阿南市立椿小学校が創立150周年という大きな節目を迎えられ、記念式典に出席いたしました。明治8年の創立以来、150年という長きにわたり、同校は地域の皆さまの深い愛情に支えられ、郷土とともに歩みを進めてこられました。蒲生田岬灯台が航路を見守り、舞子島古墳群が太古の歴史を伝えるこの椿の地は、豊かな自然と文化が織りなす素晴らしい学びの環境です。

私からは「学校・家庭・地域が手を携え、子どもたちを真ん中に据えて育てる姿勢は、これからも変わることのない大切な礎です。児童の皆さんが、校訓の『自主・協同・責任』を胸に、仲間と力を合わせて未来を切り拓いていかれること、そして、創立150周年を新たな出発点として、椿小学校がますます地域に愛され、発展していくことを心より願っております」とあいさつをいたしました。

阿南市では今後も、「こどもまんなか笑顔あふれる阿南」の創生に向け、子どもたちが安心して学べる教育環境の整備に力を尽くしてまいります。

